

より近く より深く より前へ

MONTHLY ZEN-NOH GUNMA



県本部通信



私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

事業のうごき ③

JA群馬担い手サポートセンター

- JA生産販売計画の実践と目標達成に向けた取組支援
- 担い手の経営強化のための経営管理支援
- JA営農経済部門の人材育成支援
- TAC活動等JAの出向く体制強化支援
- 大規模経営農家・法人等の経営安定化支援
- JA野菜振興計画の目標達成に向けた取組支援
- 農産物の安全・安心確保対策
- 園芸作物生産実証農場の運営

畜産農産部

酪農畜産課

- 生乳計画生産の推進
- 初妊牛導入推進
- 素牛導入推進
- 種豚導入推進
- 渋川家畜市場若齢子牛の集荷推進
(優良ET卵産子の活用促進)

米麦特産課

- きのご種菌・種駒推進
- こんにゃく荒粉・精粉入札販売推進
- 平成30年産民間流通麦取引推進
- 平成32年産民間流通麦生産計画推進

園芸部

園芸販売課

- 共計ほうれん草販売 (周年)
- 共計チンゲンサイ販売 (周年)
- 共計味にら販売 (周年)
- 共計春菊販売 (3月上旬迄)
- 共計土ねぎ販売 (3月中旬迄)
- 共計白ねぎ販売 (3月末日迄)
- 共計ブリックスナイン販売 (6月末日迄)
- 県統一規格共計きゅうり販売 (7月末日迄)

販売促進課

- 春野菜販売促進
- もやし・加工野菜販売促進
- 花き類販売促進

園芸資材課

- 春夏用出荷資材予約推進(ほうれん草・きゅうり・ふき他)
- 平成31年産青果物段ボール予約推進
- 温床資材予約推進(農ビ・ポリマルチ他)

- 春夏まき用野菜種子推進
(ほうれん草・枝豆・とうもろこし他)

生産資材部

花木流通センター

- 花木流通センターの売出し・フェア
3月16日(土)～21日(木・祝)
44周年 創業祭フェア
- 愛菜館の売出し・フェア
3月8日(金)・18日(月) 8の日お米フェア
3月6日・13日・20日(水)
毎週水曜日 精肉全品2割引き
3月8日(金)～11日(月) 愛菜館閉店セール第一弾
3月15日(金)～18日(月) 愛菜館閉店セール第二弾
3月21日(木・祝)～24日(日)
愛菜館閉店セール第三弾

肥料農薬課

- セルフブレンド推進
- 水稻肥料農薬推進
- 茎葉処理除草剤大型規格推進
- バンカーシート推進

生活部

生活課

- 太陽光発電推進 (周年)
- 仕込み味噌推進 (10月～3月)
- デコボン・木熟はっさく推進 (2月～3月)

葬祭総合課

- 会員獲得推進の実施

施設住宅課

- 賃貸アパート・個人住宅推進 (周年)
- カクイチ物置・広スペースハウス推進 (周年)
- 住友不動産(株)「新築そっくりさん」推進 (周年)

自動車燃料部

石油課

- オイルキャンペーン (2月～5月)
- 春期タイヤキャンペーン (3月～5月)



こんにやく大黒天祭

■こんにやく振興を祈願

1月19日(土)、下仁田町の諏訪神社境内にて「こんにやく大黒天祭」が行われ、JA役職員やこんにやく生産部員、当県本部を含むこんにやく関係業者が多数参加しました。このお祭りは、こんにやくの豊作や価格向上など業界全体の繁栄を祈願するために毎年開催されているもので、今年もこんにやく芋が祀られた祭壇で神事が執り行われました。

当日は、お札の販売や味噌田楽の無料配布、西欽也氏による「2019年世の中の状況と今年の運勢」と題した記念講演会も開催されました。



第13回JA農産物検査員鑑定技術コンテスト

■検査技術を競う

1月21日(月)、JAビルにおいて農産物検査員の鑑定技術向上を目的とした「第13回JA農産物検査員鑑定技術コンテスト」が開催され、各JAの検査員25人が参加しました。

コンテストは、水稻うるち玄米・水稻もち玄米・普通小麦・米穀の銘柄鑑定等計50点を対象に行われ、知識と経験を活かして鑑定技術を競いました。

競技の結果、成績上位の2名は、3月8日(金)に千葉県で行われる「平成30年度JAグループ全国農産物鑑定会」に本県代表として出場します。

1位	JAたのふじ	坂井 昇
2位	JAはぐくみ	清水 克倫
3位	JA嬬恋村	熊川 基彦



第22回群馬県きのこ品評会

■良質なきのこが勢ぞろい

1月22日(火)、23日(水)に、県・群馬県きのこ振興協議会・当県本部共催の「第22回群馬県きのこ品評会」が開催されました。この催しは、県産きのこ栽培技術や品質の向上、きのこ産業の振興、きのこの消費拡大を目的に毎年開催されています。会場には、良質な生しいたけ・まいたけ・なめこなどが多数出品され、22日には審査が、23日には表彰式や展示即売会、きのこ汁の試食などが行われました。



平成30年度 施肥面談実習講習会

■実演研修でスキルアップ

1月23日(水)、土壌診断センター主催の「平成30年度 施肥面談実習講習会」が開催され、県内JA営農経済渉外担当者ら22人が参加しました。実習では4班に分かれ用意した土壌診断表に基づき、土壌改良材や基肥の設計を作成しました。その後、各班の代表者が農家役の講師を相手に施肥面談を実演し、最適な肥料の推進や質問への対応などについて学びました。

運営体制を確認 大規模乾燥調製施設運営管理・環境整備コンクール



ライスセンター審査の様子

群馬県農協穀類乾燥調製(貯蔵)施設協議会の主催による、共乾施設の適切な運営管理と環境整備・作業の安全・品質事故の防止などを目的とした「第12回共乾施設運営管理・環境整備コンクール」が開催されました。1月24日(木)にライスセンターの部、3月1日(金)にカントリーエレベーターの部が行われ、審査員は県内JAの施設を巡回し、運営体制や整理整頓状況などを審査しました。

新春相続対策セミナー ～争族からの回避と事業承継への道～

1月25日(金)、施設住宅課主催の「新春相続対策セミナー」がJAビルで開催され、組合員とその家族約70人が参加しました。当日は、資産活用大学主宰の岡本誠司氏を講師に迎え、「争族からの回避と事業継承への道! 火種の原因を前倒しに対策!」をテーマに講義が行われました。相続税対策として間違っていることや土地活用時の考え方など事例を交えて紹介し、参加者は熱心に耳を傾けていました。



熱心に聞き入る参加者

「受験必勝! やまといも」を地元学校へ寄贈

JAにつたみどりは、地元受験生とその家族、学校関係者に、やまといもの強い粘りのように受験に粘り勝ちしてほしいという願いを込めて、地元の学校にやまといもを寄贈しました。

群馬県は、やまといもの栽培面積が全国No.1で、県内シェア約9割を占めるJAにつたみどりは、や

まといもの消費を通じて地元受験生を応援したいと、1月24日(木)に太田市立尾島中学校、29日(火)、31日(木)には、群馬県立太田高校の生徒ひとりひとりに生産者とJA役職員からやまといもを手渡ししました。受け取った生徒は、「やまといものように粘り強く、受験を頑張ります」と意気込みを話しました。

合格を願って手渡し様子



1月24日 尾島中学校



AI搭載養液土耕システム製造元が農場を視察

■園芸作物生産実証農場に「ゼロアグリ」を導入

1月30日(水)、園芸作物生産実証農場が導入したAI搭載養液土耕システム「ゼロアグリ」の製造元であるルートレック・ネットワークス社の佐々木伸一社長が農場を視察に訪れました。「ゼロアグリ」はセンサーで灌水と施肥を最適な量を最適な時間に供給するシステムで、農場では、同月17日に定植したキュウリの促成栽培から導入しました。佐々木社長は「炭酸ガス装置とゼロアグリを一緒に使うことで、炭酸ガスで光合成を促進し、必要となる最適な量の灌水と施肥をゼロアグリが行い、相乗効果で良い結果を期待しています。スマート農業を推進し、一番の課題である担い手不足を解決したい」と今後の展望を語りました。



キュウリ・ブリックスナイン・もやし試食宣伝会

■キュウリのミネストローネスープを試食

2月4日(月)、東京都中央卸売市場大田市場の東京青果(株)および東京荏原青果(株)卸売場にて、キュウリ・ブリックスナイン・もやしの試食宣伝会を開催しました。

大田市場内で、これから出荷が増えるキュウリとブリックスナインの告知を行い、目新しいメニューを含めた試食を実施しました。試食メニューは東京青果では、「たたきキュウリ」とカットしたブリックスナインを、東京荏原青果ではキュウリのミネストローネスープとカットしたブリックスナインをそれぞれ配布し、PRしました。キュウリのミネストローネスープを試食された市場関係者からは、「こんな食べ方ができるとは知らなかった」と驚きの声をいただき、予想以上に好評でした。



民間流通麦に係る意見交換会

■実需者ニーズを取り入れた麦生産を協議

2月6日(水)、米麦特産課は「民間流通麦に係る意見交換会」を開催し、生産者団体・実需者・行政関係者ら約40人が出席しました。当日は、30年産の単収状況の検証・確認や32年産の生産計画について、31年産の販売予定数量や実需者の購入希望数量のミスマッチ状況を踏まえ協議されました。流通円滑化に向けて生産者側と実需者側が活発に意見を交換し、実需者側から国内産小麦の品質向上やスムーズな品種転換等の要望がありました。



第11回群馬県産上州和牛枝肉共進会褒賞授与式

■優れた肥育技術を讃える

2月8日(金)、渋川家畜市場において、1月21日(月)に開催された「第11回群馬県産上州和牛枝肉共進会」の褒賞授与式が執り行われました。渋川家畜市場に上場され、県内にて肥育された黒毛和牛29頭の中から、厳正な審査により優秀な枝肉を決定しました。最優秀賞を受賞した枝肉の生産者と子牛の繁殖者は以下のとおりです。(株)加藤ファームは、5年連続での受賞となりました。

肥育者	JAにったみどり
	(株)加藤ファーム

繁殖者	JA前橋市
	岡田 成夫

平成30年度 群馬県JA-TACパワーアップ大会

2月13日(水) JA群馬担い手サポートセンター主催の「平成30年度 JA-TACパワーアップ大会」が開催され、県内JA・当県本部の関係役職員ら約70人が参加しました。会場では、優れた活動を実施したTAC担当者やJAに対し、表彰状と副賞が贈呈され

ました。また、受賞者による事例発表のほか、有限責任監査法人トーマツの水谷成吾シニアマネージャーによる「農協を取り巻く環境と農協の目指すべき姿～農協職員は“自己改革”出来るのか?～」と題した基調講演が行われました。

優秀表彰者は、以下のとおりです。



優れた活動をした優秀表彰者

●TAC担当部門	
JA前橋市	熊川 和也
JA佐波伊勢崎	大山 祥平
JA利根沼田	山田 日向
●TAC新人部門	
JAはぐくみ	塚越 鈴音
●JA部門	
JA前橋市	JA佐波伊勢崎

群馬県青果物販売促進会議

2月15日(金)、県・群馬県園芸振興協議会・当県本部共催の「群馬県青果物販売促進会議」が開催され、県内各JA・関連団体・全国主要青果物卸売会社・流通関係者ら約200人が参加しました。

近年の青果物を取り巻く環境は、生産面では従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地増加や天候の不安定などが顕著となっています。また、販売面においても実需者ニーズの多様化への対応など産地にお

ける対応強化が進むものの、成果としての販売単価においては、その対価が得られているとは言い難い状況にあります。こうした状況を踏まえ、関係機関の連携により生産振興及び生産・流通・販売体制の強化を図ることを目的にこの会議を開催しました。

当日は優良卸売会社並びに実需者の表彰や、本県の園芸振興対策と平成31年度青果物生産出荷基本計画についての説明が行われました。



県産青果物の展示・試食コーナー



挨拶をする大澤会長

みどりの風 放映予定

GTV 48ch 放映のお知らせ

番組名／提供	放送日 ※再放送日	時間
○地域の特産！ しいたけ・ほうれんそう / JA赤城たちばな	3月11日(月)	PM 9:00～ 9:30
	※3月17日(日)	AM 8:00～ 8:30
○ライスカップ駅伝 / JA群馬中央会	3月18日(月)	PM 9:00～ 9:30
	※3月24日(日)	AM 8:00～ 8:30

※タイトル・放送内容等は変更となることがあります。



矢田 優季アナ

農業チャレンジャー

祖父の代から移りゆく新たな農業のかたち

JAたかさき管内 樋口 雄太 さん

就農するなら最初から

今回の農業チャレンジャーは、JAたかさき管内の高崎市木部町で「うれっ娘トマト」を生産する樋口さんです。

子供の頃から両親や祖父母がトマト栽培をする姿を見て育ち、農家の長男であったことから、自分が継ぐのだろうという気持ちを持っていたといいます。企業に就職したとしても、年を取ってから地元に帰って就農するのであれば、最初から始めたいと考え、県外の大学を卒業後実家に帰り、就農して10年目になるそうです。

システム導入の効果

樋口さんが生産する「うれっ娘トマト」は、地元の特産品として商標登録を取得したJAたかさきトマト選果場独自のブランドトマトです。「麗容」という品種の大玉トマトで、その名のとおり美しい容姿で、酸味と甘みのバランスが良い優良品種です。

今期は8月下旬に約6,000本の苗を植え、収穫は10月下旬から翌年7月初旬まで。ガラスハウスとビニールハウスで環境制御システムと炭酸ガス装置を導入し、長期促成栽培を行っています。「システムを導入したことで光合成が促進され、灌水や液肥の使用量が増えましたが、

それ以上に収量も増えました。システムの使い方や管理方法を勉強し、灰色カビが発生しにくくなり、農薬の使用回数が減りました」とその効果を話してくれました。2年前からはAI搭載養液土耕システム「ゼロアグリ」を導入し、スマート農業にも取り組んでいます。

最終的には味を追求

現在、トマト生産部会直販部の部長を務める樋口さん。「部会の生産者も徐々に環境制御システムを導入する人が増えています。全体の収量が上がれば、部会としても成長していけると思います」と期待を寄せています。

今後の展望についてお聞きしたところ、「近年は青枯れ病の発生が多く、20t/10a程の収穫量となっています。青枯れ病は、土壌消毒をしても土の下層に菌が隠れている厄介な病気です。この病気の対策を行い、システムを活用して収量を上げて、最終的には、味を追求していきたいと考えています」と語ってくれました。

率先して新たなシステムを取り入れ、中心的存在として「うれっ娘トマト」を支える樋口さんに、今後さらなる活躍が期待されます。

Profile

樋口 雄太(ひぐち・ゆうた) さん

1985年生まれ 33歳

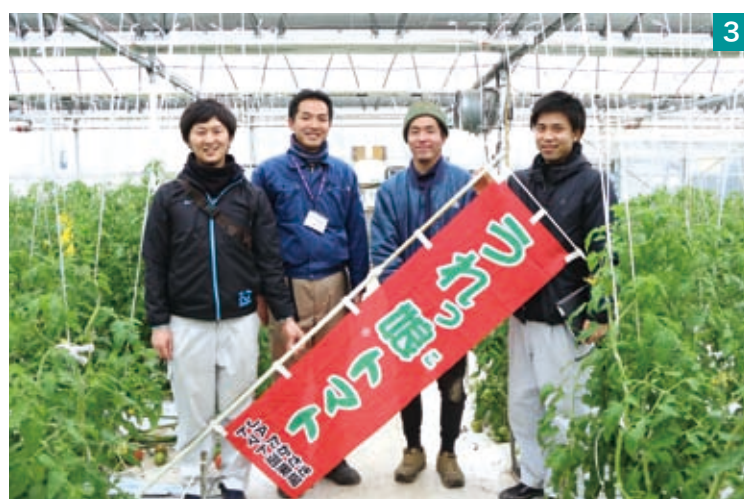
JAたかさき トマト生産部会 直販部長

栽培面積：トマト……………40a

趣味：トマトの収穫が終わったら
旅行へ行く。

トマトの好きな食べ方：生のまま塩を振って。





- 1 翌日出荷する「麗容」を収穫。順次茎を下げて、収穫しやすい高さに調節し、作業効率を上げています。
- 2 AI搭載養液土耕システム「ゼロアグリ」。土壌の状態を把握し、点滴チューブから培養液を自動で供給。
- 3 JAたかさき農業振興課の井上さん(右端)と部会を担当する園芸課の倉林さん(左端)、群馬県西部農業事務所の神尾さん(左から2番目)と。
- 4 次々に収穫時期を迎える大玉トマト「麗容」。



「お客様に安心して、安全にガスを使っていただけるように」

Profile

都丸 智哉 (31歳)

とまる・ともや

趣味……釣り・フットサル
(キーパー)

好きな食べ物……塩ラーメン

●職場の皆さんからみた都丸さん
「農家さんに親身に対応していて、知識も豊富で、経済福祉課になくてはならない存在です。」



▲ガスボンベを運ぶ様子

がんばって
まーす!

JA赤城たちばな 営農経済部 経済福祉課
とまる ともや
都丸 智哉さん

——入組して何年目ですか？

入組して9年目です。

——JAに就職したきっかけは？

地元で就職したいと考え、大学で学んだ自然環境を農業に関連のあるところで活かせたらと思い、JAに就職しました。

——現在のお仕事内容を教えて下さい。

LPガスと燃料の事務を担当しています。新規のガス契約の手続き、ガス器具が壊れてしまったときの簡単な修理や手配も行います。

——現在のお仕事はどれくらい？

入組してずっと経済福祉課ですが、最初は店舗の窓口、その後生活資材関係や経理関係を経て、今の仕事になって2年目です。

——特に力を入れていることはあり

ますか？

いろいろな知識やスキルを身に付けたいと考えています。日々の業務で学んだり研修に参加したり、資格も取得するようにしています。1年目に第二種販売、2年目に液化石油ガス設備士の資格を取得しました。

——心掛けていることはありますか？

ガスは生活に係る部分で、火が使えないと困るので、できるだけ早く対応することを心掛けています。

——やりがいを感じる時は？

お年寄りの方が多くなっているの、迅速かつ丁寧な対応を心掛け、感謝の言葉をいただいたり、器具の取付けや交換を行い、お客様に喜んでいただけたときにやりがいを感じます。

——休日はどのように過ごしていますか？

川や湖に釣りに行きます。ルアーでヤマメやイワナ、ニジマスを釣っています。

——釣りはいつから？

大学生の時に本格的に始めました。就職してからは、夏場の日が長い時期には、仕事終わりに利根川で釣りをしてから帰ることもあります。夏場の川は風があつて涼しくて気持ちがいいですよ。

——今後の意気込みをお聞かせください。

いろいろな知識や資格を積極的に身に付けて、ガスを利用していただくお客様に安心して、安全に使っていただけるように努力していきたいと思います。

——都丸さん、これからも地域の方々のために頑張ってください。ありがとうございました！

畜産ダイジェスト

肉牛情勢

肉牛実績

(瑕疵抜き税込) (単位：円)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
上場頭数 (単位:頭)	平成29年	1,051.5	754.0	836.5	800.5	700.0	878.5	839.5	1,161.5	1,270.0	653.0	698.0	725.5	10,368.5	864.0	
	平成30年	969.5	679.0	734.5	835.5	836.0	747.5	805.5	1,112.5	1,207.0	640.0			8,567.0	856.7	
黒毛和種 (去)	A5	平成29年	2,882	2,869	2,867	2,828	2,909	2,783	2,860	2,859	2,920	2,858	2,756	2,840		2,859
		平成30年	2,847	2,836	2,908	2,864	2,809	2,821	2,848	2,955	3,017	2,894				2,895
	A4	平成29年	2,632	2,559	2,469	2,511	2,492	2,371	2,422	2,501	2,561	2,457	2,460	2,484		2,501
		平成30年	2,444	2,421	2,524	2,496	2,425	2,494	2,513	2,640	2,642	2,565				2,530
	A3	平成29年	2,279	2,263	2,129	2,125	2,034	2,039	1,982	2,133	2,337	2,123	2,094	1,966		2,131
		平成30年	2,100	2,149	2,099	2,138	2,160	2,134	2,274	2,451	2,355	2,205				2,223
	A2	平成29年	2,002	1,733	1,750	1,823	1,754	1,690	1,744	1,791	1,796	1,721	1,874	1,890		1,773
		平成30年	1,902	1,802	1,944	1,798		2,039	1,873	1,620	1,843	1,849				1,850
交雑種 (去)	B5	平成29年	1,966			1,943		1,939		2,077	1,979	1,934	1,808	1,944		1,960
		平成30年	1,995	1,819	1,945	1,890	1,924	2,055	1,855	1,885	1,951					1,946
	B4	平成29年	1,760	1,793	1,798	1,813	1,871	1,779	1,824	1,794	1,801	1,672	1,679	1,721		1,772
		平成30年	1,751	1,717	1,798	1,779	1,740	1,752	1,753	1,799	1,813	1,769				1,773
	B3	平成29年	1,615	1,589	1,591	1,623	1,663	1,544	1,595	1,580	1,565	1,502	1,441	1,452		1,566
		平成30年	1,568	1,529	1,581	1,604	1,595	1,589	1,646	1,643	1,707	1,655				1,618
	B2	平成29年	1,318	1,246	1,237	1,308	1,406	1,247	1,216	1,275	1,261	1,257	1,239	1,219		1,272
		平成30年	1,280	1,305	1,344	1,381	1,383	1,417	1,460	1,523	1,568	1,499				1,415

2月 渋川家畜市場市況

(株)群馬県食肉卸売市場 肉牛課

区分	性	出場頭数	成立頭数	高値価格	安値価格	平均価格	平均体重	平均日令	平均単価
子牛	雌	100	96	1,087,560	444,960	723,352	272	279	2,650
	雄								
	去	166	145	1,083,240	379,080	798,045	316	283	2,520
	計	266	241	1,087,560	379,080	768,292	299	281	2,567
成牛	雌	5	5	873,720	412,560	711,072	540	3,594	1,314
	雄								
	去								
	計	5	5	873,720	412,560	711,072	540	3,594	1,314
若齢	雌	2	2	638,280	549,720	594,000	154	137	3,857
	雄	3	3	665,280	538,920	619,920	169	124	3,668
	去								
	計	5	5	665,280	538,920	609,552	163	129	3,739
合計		276	251	1,087,560	379,080	763,990	301	344	2,535

養豚情勢

肉豚実績

(税込) (単位：円)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
総と畜合計 (単位：頭)	平成29年	39,999	39,189	34,496	39,588	39,278	42,642	44,124	42,796	41,252	38,730	42,055	482,203	40,184		
	平成30年	41,549	39,838	37,775	36,802	40,354	38,616	46,669	49,989	47,415	47,624			426,631	42,663	
群 馬	極上	平成29年	505	532	602	607	612	594	542	549	542	489	587	454		551
		平成30年	467	585	584	602	599	537	476	468	461	465				516
	上	平成29年	504	546	604	620	613	601	537	555	563	499	494	448		549
		平成30年	465	578	587	608	613	528	464	452	152	451				518
	中	平成29年	492	535	603	624	600	585	526	547	548	481	477	426		537
		平成30年	449	559	568	596	586	508	442	434	434	426				493
	並	平成29年	447	496	561	594	556	544	494	508	496	430	428	389		495
		平成30年	415	534	507	551	494	444	388	380	359	364				436
	等外	平成29年	291	297	350	400	370	355	323	331	311	298	272	248		321
		平成30年	347	398	396	408	374	366	337	316	262	303				351
	全体	平成29年	477	515	579	600	583	571	512	529	530	468	462	419		520
		平成30年	443	553	554	580	573	499	439	428	421	419				486

月平均は(総売上÷総重量)

(株)群馬県食肉卸売市場 肉豚課

JA赤城たちばな



パプリカの出荷作業をする木暮さん

木暮さんは就農2年目でハウス3棟を建設するも、その年に台風被害に遭い3棟すべてが全壊。「辞めようか迷ったが、もともと建築の仕事をしていたこともあり、その知識を生かせれば」と木暮さんは再建を決意しました。L字にパイプを立てるなど工夫を凝らし、雪害にも負けない強固なビニールハウスで大切なパプリカを守っています。

今では、病害虫防除や温湿度管理を徹底し、例年1500ケースのパプリカをJAに出荷。妻の恵美子さんも梱包などの作業を手伝い、夫婦一丸で取り組んでいます。「パプリカは手間がかかる品目だが、じっとしているのが嫌いだから合っているのかも。なにより夫婦で一緒に時間を過ごせるのが幸せ」と笑顔で話していました。

知識と経験生かし パプリカ栽培に応用

赤城町溝呂木の木暮正士さんは、就農して8年目のパプリカ農家です。

木暮さんは、建築資材の販売を続けながら2011年に就農しました。社会情勢の影響から、ハウスメーカーの参入によって仕事が減少。身体が元気なうちに何か挑戦できないかと考えていたところ、上毛新聞のJA面でパプリカの記事を読んだのがきっかけと話していました。

JA前橋市



生産者の指導のもと、椎茸の植菌作業を体験する親子の参加者

20人がこの日100本用意した、コナラの原木に椎茸の種菌を植え付ける「植菌作業」を体験。植菌作業では、同協議会の松村一夫さん(73)が「植菌の打ち込みは、原木を平らにし、木全体に均等に打ち込むのがポイント。軍手をつけて電動ドリルを使用する際は、軍手の巻き込みに気をつけてケガや事故が無いようにして下さい」と消費者の前で作業を実演しながら説明しました。その後、消費者は原木に電動ドリルで穴を空け、その穴に椎茸の種菌をハンマーで叩きながら植えていきました。種菌を植え付けた原木は、参加者が各自持ち帰り管理します。松村さんは、今後のほだ木の育成方法などを話した後「今後、努力してほだ木を管理すれば、来年の秋から再来年の春までの収穫が楽しみにになります」と消費者に話しました。作業を体験した消費者は「収穫できるまでおよそ1年半と聞いたが、収穫できるように管理に努めたい」と栽培に前向きな姿を見せた。また、参加した子どもたちは「とても楽しかった。キノコが出来たらキノコパーティーをしたい」と声を弾ませていました。

その後、参加者たちは協議会に所属する生産者の栽培施設見学や、同市荒子町の「麺道楽」で地元産のキノコを使った各種の料理を試食しました。交流会を通して生産者と消費者はきのこ生産について意見を交わし、交流を深めていました。同協議会は、34人の生産者が所属。スーパーや直売所などを通して消費者に安全・安心で美味しいキノコを提供しています。

植菌作業で生産者と消費者が交流

「中毛地区きのこ協議会」は1月19日、渋川森林事務所とJA前橋市の協力のもと、キノコ生産者と消費者の交流会を同市江木町の同JA本所野菜集配センターで開きました。

交流会の前に、同協議会の茂木剛会長は「本日は椎茸の植菌体験を行います。今日の体験でキノコに関心を持ってもらい、皆さんにキノコの応援団になってもらいたい」と挨拶しました。交流会では、参加した消費者

JAにっただみどり



▲ 生産者からの質問について答える JAと市場の担当者

郎常務は「2月から3月にかけて出荷量が増えてくる中、スーパーへPR攻勢をかけていきたい」と話しました。

県東部農業事務所桐生地区農業指導センターの高川功主幹は当面の管理について説明しました。

JA新里地区きゅうり部会の山形芳生部会長は「4、5月の大型連休は価格面で心配はあるが、他産地に負けまいようしっかり目ぞろえをしていきたい」と話しました。

管内みどり地区では新里町を中心に、45戸が促成キュウリを栽培。出荷は6月下旬まで続く予定です。

促成キュウリの目ぞろえ会 本格出荷控え規格確認

JAにっただみどりは、2月4日、桐生市の新里野菜集出荷所で促成キュウリの目ぞろえ会を開きました。生産者ら51人が参加し、出荷規格や品質の徹底を申し合わせました。

JA園芸販売部の赤石知己次長が、傷や着色不良、ねじれなど見本で説明。「葉陰などで緑の薄くなった着色不良のものは、程度に応じて区分けを徹底すること。栽培日誌は出荷予定の3日前までに提出すること」と注意を呼び掛けました。

JA全農ぐんま園芸販売課の宮内景太さんが、販売動向と今後の見通しを報告。ぐんま県央青果の戸丸次

JA利根沼田



▲ 熱心な意見交換が行われました

で熱心に討論されました。

林康夫組合長は総評で「これからの農業を担う若い人たちの意見が聞けて大変有意義な時間になった。今日、出された要望や意見を真摯に受け止めJA運営に活かしたい」と今後も青年部と連携、協調していくことを確認しました。

担い手の声をJA運営に

JA利根沼田青年部（高草木正揮部長）は2月5日、JA利根沼田本店でJA常勤役員と懇談会を行い部員ら32人が出席しました。これからの地域農業の担い手である青年部の声をJA運営に届けるのが目的で毎年行われています。

懇談会は意見が出やすいように2つのグループに分かれ常勤役員、担当部長もそれぞれのグループに入ると約2時間の意見交換が行われました。

青年部員からは集荷や販売関係、資材高騰への対応策、農業注文書への分類番号の記載、最新の情勢について質問や意見があがり、青年部員とJA役職員の間

花木流通センター便り

花木流通センターの耳寄りな情報をお届けします！



花木流通センターでは、毎月定期的にサンドイッチ講習会を開催しています。同時にサンドイッチ総選挙も開催して、人気投票で選ばれたパンは買い得な価格にて販売等も行っています。お子様と一緒に参加できるイベントとなっていますので、ぜひご参加ください。そして、今月は花木流通センター大創業祭を開催いたします。普段にましてお得な商品を多数ご用意しておりますので、ぜひお越しください。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

3月の売出し・イベント案内

色々な売出しやイベントが目白押し。ぜひお出かけください！

開催日	内容
3月16日(土)～21日(木祝)	44周年 創業祭フェア

～講習会等～

開催日	内容
3月2日(土)	親子でサンドイッチ講習会
3月21日(木祝)	春の寄せ植え講習会

～「JA直販 愛菜館」閉店のお知らせ～

18年間皆様にご愛顧頂いておりました「JA直販 愛菜館」は、3月24日(日)をもって閉店させていただきます。皆様のご愛顧に心より感謝申し上げます。引き続き、花木流通センターをご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

開催日	内容
3月8日(金)～11日(月)	愛菜館閉店セール第一弾
3月15日(金)～18日(月)	愛菜館閉店セール第二弾
3月21日(木祝)～24日(日)	愛菜館閉店セール第三弾

※6月から2月まで毎週火曜定休となります。

※毎週金曜日パンの日…サンドイッチ全品2割引き

※売出し・イベントの日程・内容は変更になる場合があります。

暮らしをもっと やかに

KABOKU
花木流通センター

営業時間/9:00～18:00

(6月～2月毎週火曜定休)

取扱商品

- 園芸資材館/営農・園芸資材等
- ふらわーらんど/鉢花、花苗等
- JA植木コーナー/緑花木、盆栽等
- エクステージ/外構・造園工事等
- 新鮮ぐんまのり館/産直野菜、農畜産加工品、手作りパン・ハム・食堂等
- 外売場/野菜苗、大型肥料・用土、植木鉢等



お問い合わせ先

前橋市亀里町1307-1

TEL:027-220-2427

FAX:027-220-2424

おさいわいば
JA直販

愛菜館

営業時間/9:00～18:00

(毎週火曜定休)

取扱商品

- 産直野菜
- 農畜産加工品/店頭精米/精肉等



お問い合わせ先

前橋市古市町106-1

TEL:027-210-7788

FAX:027-210-9811

『県本部通信』における個人情報の取扱いについて

『県本部通信』に投稿いただいた方の個人情報は、プレゼントの発送やお返事、紙面での紹介に使用させていただきますのでご了承ください。また、これらの個人情報は前記の目的以外には使用せず、ご本人より事前に同意をいただいた場合以外には一切開示いたしません。

自由なご意見・ご感想をお寄せください。

【あて先】

〒379-2147群馬県前橋市亀里町1310番

JA全農ぐんま「県本部通信」係まで

E-mail : info-gunma@gm.zennoh.or.jp

※JAメール等でも結構です。

プレートをキャンバスに見立てて

Art Cooking



Food adviser

石垣 恵美

1979年から群馬県家の光講師。
FM局等でも活躍中。



ほうれん草とごまのブラマンジェ

材 料

4個分 (1個分145 kcal)
(メープルシロップ プラス18kcal)

ほうれん草 50g
ゼラチン 5g
水 50cc
生クリーム 200cc
白すりごま 大さじ1
砂糖 25g
抹茶 3g
オールスパイス 少々
ナツメグ 少々
シナモン 少々

作り方

- 1 ほうれん草は、茹でてフードプロセッサーにかける。さらに包丁で細かくたたく。
- 2 鍋に水とゼラチンを入れて少し経ったら、生クリーム・白すりごま・砂糖を加え火にかける。ゼラチンがとけたら、抹茶・1のほうれん草・スパイス類を入れ、よく混ぜて型に流し、冷蔵庫で冷やし固める。
- 3 型から出して器に盛る。メープルシロップや黒みつをかけてもおいしくいただける。